

国際会議を通じた情報の発信

（2014年の国際会議より）

普及部 国際課

海外普及25周年

当センターは、1989年にタイ・コンケンで開催された第1回救世自然農法国際会議において設立されたAPNAN (Asia Pacific Natural Agriculture Network・アジア太平洋自然農業ネットワーク)を通じて、アジア・オセアニア地域への自然農法の本格的な普及を開始し、2014年に25周年を迎えました。この間、2002年のニュージールランドでの開催まで世界の六大州で7回の救世自然農法国際会議を行ってきました。またIFOAM（国際有機農業運動連盟）世界大会での発表などを通じて自然農法の情報を海外に発信してきました。

本号では2014年に財団が参加した国際会議について報告します。

2014年APNAN会議

APNAN加盟国において2年毎に開催されている本会議は、2012年のタイでの会議（自然農法誌67号に詳細掲載）に続き、2014年は7月25日と26日の両日、マレーシア・ジョホールバル市で開催され、アジア・オセアニア地域の18か国にアメリカ、ロシアを加えた20カ国から65名の参加がありました。開会式では伊藤財団理事長が歓迎の挨拶を述べ、続いて20カ国からの参加者が各国の活動について発表しましたので、いくつか紹介します。

ブータン

ブータンへはAPNANを通じて1993年に自然農法とEM技術が紹介され、2010年に農林省のCORRB（再生可能自然資源研究評議会）との間に協定書を結びました。

そしてCORRBが管轄する学校農業プログラム（SAP）を窓口として、国内外でブータンの教師を対象とした研修が行われています。SAP活動を通じて、生徒からその親達へ自然農法の輪が広がっています。

カンボジア

首都プノンペンに本拠を置くニアリー・クメール協会が2004年に設立され、この団体によって普及活動が行われています。この協会による自然農法とEM技術の研修会は、プノンペンや地方都市において積極的に開催され、2014年までに軍人を含む2万6千人を超える人々が参加しました。同協会の農場ではボカシを使用する事でバナナの収量が増えたり、パクチョイ（タイサイ）の生育が促進された事例や、ゴム園の土壌が改善されラテックス（天然ゴム乳液）量が増えた等の報告がありました。

インド

インドでは肥料・化学製品の大量使用が問題となっていて、政府は人々が自然農法や有機農業を学んで農薬の使用を減らすことを支援しています。西インドのマハーラーシュトラ州では果樹栽培にEM技術が導入され、スイートライムの果実が大きくなり、落果も減って増収した事例、ブドウ、ザクロ、バナナの病害が軽減した事例や、病虫害が減って収量が増えたシヨウガやトマトの事例などが報告されました。

ラオス

2012年に首都ビエンチャン農林局との間で協定書の更新を行い、プロジェクトが継続されています。今回参加したプロジェクト担当者からは、2004年に首都ビエンチャン特別市の16農家で始まった自然農法・有機栽培が、現在ではビエンチャ



ン市7郡の854農家(面積は合計1046ha)に広がっている事、4つの郡の9農家が自然農法のモデル農家である事が報告されました。

ロシア

2001年に沿海州ウラジオストクに設立された団体が、沿海州をはじめロシアの他の地域へも普及を進めています。個人の家庭菜園実践者から大規模な穀物・野菜生産を行う企業へと普及の輪が拡がりつつあるという報告がありました。

モンゴル

2012年のAPNAN会議以来、EM技術を利用した栽培が行われています。キャベツ、ジャガイモ、キュウリの生育がよくなり、収量が増えた事例が報告されました。

IFOAM有機世界大会

IFOAM(国際有機農業運動連盟)は、1972年にフランスで設立され、現在はドイツ・ボンに本部を置く、世界の有機運動を推進している最大の民間ネットワーク団体です。約120カ国800の会員からなり、日本では当センターを含む16の団体が加盟しています。

IFOAM有機世界大会は



APNAN会議参加者による記念撮影

優秀ポスター
賞の表彰状



IFOAM 世界大会レセプションでの優秀ポスター賞表彰(右から6人目が当センターの徐会連博士)



中国有機農業と自然農法国際フォーラムでの、当センター理事長による自然農法研究開発に関するプレゼンテーション

2002年にカナダで開催されたのを皮切りに、3年毎に世界各地で行われています。2014年は第18回大会が10月13〜15日にトルコ・イスタンブール市で「Building Organic Bridges(有機の橋を架けよう)」をテーマに開催され、81カ国から約900人が参加しました。大会では基調講演が行われた全体会議の他、世界の有機農業の現状や将来展望について議論する総合会議、研究会議、実践者会議、各種団体によるワークショップに分かれて多くの発表が行われました。

よる馬鈴薯生育の改善」と題した口頭発表を行いました。同じく徐博士らの「落花生の有機栽培で胚軸露出によるシグナル伝達と旱生原理の応用」と題したポスター発表は優秀ポスター賞を受賞し、10月14日のレセプションにおいて表彰されました。なお、今回の世界大会は2017年11月に、インド・デリーで開催される予定です。

中国有機農業と自然農法 国際フォーラム

当センターは、中国国内で活躍する有機農業研究者や技術者、政府関係者らと共に「中国有機農業と自然農法国際フォーラム」を中国で毎年開催しています。2014年は8月9〜10日に、北京市で開催しました。このフォーラムには、中国のフォーラム会員約20名のほか、政府機関・大学・企業の関係者ら約30名、進行スタッフ15名と来賓の総勢約70名が参加し、「安全な食品の生産確保、生態環境の保護、農牧業の持続発展の促進」をテーマとした発表や活発な意見交換が行われました。

当センターは、中国国内で活躍する有機農業研究者や技術者、政府関係者らと共に「中国有機農業と自然農法国際フォーラム」を中国で毎年

自然農法の海外普及は、財団と協定を締結したブータン、ラオスをはじめAPNAN会議に参加するアジア・オセアニア地域の国々に加え、ブラジル、フランス、アフリカのアンゴラ等へも拡がっています。(大久保 秀彦)